

cue

京都大学電気関係教室技術情報誌

NO.1

JUNE 1998

創刊号

創刊を祝して 洛友会 会長 近藤文治
巻頭言 日立製作所 三浦武雄
大学の研究・動向
..... 半導体物性工学分野・大規模集積回路分野
産業界の技術動向 KDD 平田康夫
関係教室全研究室紹介
平成9年度修士論文テーマ紹介
学生の声
教室通信

cue：きっかけ、合図、手掛かり、という意味
の他、研究の「究」（きわめる）を意味す
る。さらに KUEE (Kyoto University
Electrical Engineering) に通じる。

教室通信

情報学研究科について

平成10年4月より新しく情報学研究科が発足しました。この研究科は「高度情報化社会の健全な発展に資する学問的基礎を確立し、情報およびその基盤システムを創造する基礎科学としての「情報の学」を形成・発展させ、総合的視点から先駆的・独創的な学術研究を推進すること、並びに、高度情報化社会を支える優れた視野の広い人材を多数育成すること」（同研究科パンフレットより）を目的とした研究科です。従って、この研究科に関係する分野は、情報化社会に関連する諸分野にわたり、社会における各種の情報処理から、それを支える計算機や通信のようなインフラ技術、さらにその基礎となる情報、数理、システム、電子工学、脳・神経生理などの基礎学問分野まで含んでいます。

新研究科の構成は、知能情報学、社会情報学、複雑系科学、数理工学、システム科学、通信情報システムの6専攻から成り、講座数は42基幹講座、12協力講座です。電気系から移行した基幹講座の分野（研究室）は知能情報学専攻の言語メディアと画像メディアの2分野、通信情報システム専攻のデジタル通信、伝送メディア、知的通信網、情報回路方式、大規模集積回路の5分野で、他に超高速信号処理分野が新設されています。

新研究科の学生定員は修士課程165名、博士課程74名です。工学研究科から移行する教官は、工学部の教育に責任を分担しており、電気系から移行する教官は電気電子工学科の学生の教育については、今までと同じように行なうことになっています。従って、学部学生は大学院進学時に工学研究科の研究室と情報学研究科に分かれることになります。第一回の修士課程学生は平成12年3月に修了しますので、就職等につきましてはこれまでの工学研究科の学生と同様にご配慮下さいますようお願い申し上げます。

編集後記

京都大学電気関係教室の技術情報誌「cue」創刊号をお届けいたします。

この雑誌の発行は電気工学教室の創立百周年の記念事業の一つとして企画されたものであります。これまで、大学の中で行われている教育や研究の具体的な内容はあまり社会に積極的に開示されてこなかったことから、「一つ大学から社会に向けて情報を発信しよう」という意図のもとにこの情報誌は企画されました。この意味で、「cue」は大学と産業界を結ぶ一つの架け橋になるものと期待しています。大変お忙しいときに原稿を書いていただきました皆様に心から感謝いたします。（O.K.記）

編 集：電気電子広報委員会
田丸 啓吉、奥村 浩士、佐藤 亨、
野田 進、松木 純也（現 福井大）
発 行：電気電子広報委員会
〒606-8501 京都市左京区吉田本町
京都大学工学部電気系教室内
印刷・製本：株式会社 田中プリント